

資料 1

オンライン・セミナー「ウクライナ紛争から見えてきた国連の抱える課題」

2023年4月25日（火） 20:00-21:40

開講のことば

猪又忠徳

国連課題研究会幹事

本年2月24日に日本国際連合学会が、「世界平和のための新たな結集—ロシアのウクライナ侵略をめぐる世界的危機の解決を目指して—」と題する学会と長崎大学の有志による緊急提言と、同提言の概念ペーパーを公表したことは、ご存じのことと思います。

この諸提言の策定には、昨年10月中旬に発足したウクライナ問題に関する勉強会が当たりました。この勉強会は、6人の学会会員有志が始めましたが、国連学会理事会の承認の下で行われた本年1月の長崎大学と国連学会の共催セミナーの開催及び提言の起草を機に、これに参加を希望する学会会員及び国連関係の学識経験者に対し、open-endedなものになり、今日に至っています。

ウクライナへのロシアの侵略から生じた課題は、広範であり、その克服は長期にわたることが予想されます。従いまして、私たちは、それへの取り組みを今後とも継続する必要がありますところ、この勉強会を「国連課題研究会」（国連の抱える様々な課題を考える研究会）として、国連関係研究者を対象に定期的に（毎月最終火曜日あたりに）セミナーを開催することにしました。願わくば、ウクライナ紛争から見えてきた国連の諸課題に関し、より掘り下げた意見交換を通じて、学会の包摂的な取り組みを促して行く予定です。

本日は 昨年9月まで6年間日本国際連合学会をけん引されてきた神余前理事長をお招きして第一回セミナーを行います。ご講演のテーマは、学会が発表した上記提言に関連した内容を踏まえ、「ウクライナ紛争から見えてきた国連の抱える課題」であります。特に、総会緊急特別会期が平和のための結集の具体的措置を欠く手詰り状態の続く中で、グローバルサウスの国々を巻き込みながら、核戦争を回避し、戦争を一日も早く終結させるため国連が何をなすべきかにつきお話いただきます。

ちなみに、今夜は、学界のみならず世界平和の実現に向け運動なさっているCSOs、「ウクライナに平和を__生駒」「#Project ぴ〜す」及び日本平和構築協会の皆様もお見えになっておられ、市民社会のご意見もうかがえることが楽しみです。

神余大使、本日は長旅の直後、ご登壇頂きありがとうございます。